

私たちの手で支えあいの地域をつくる

▷問い合わせ 芦屋町社会福祉協議会
☎222-2866

～子ども食堂を知っていますか～

「子ども食堂」とは、地域の子どもたちに温かい食事や交流の場を提供し、子どもたちの育ちを支える民間発の自主的かつ自発的な取り組みです。福岡県内では280か所以上（令和4年11月時点）が開設されており、現在も増え続けています。子ども食堂は、地域によりさまざまな名称で展開されています。

芦屋町では、「もあはび食堂（船頭町）」と「にじいろ食堂（山鹿）」の2か所が開設されており、地域の皆さんに愛されています。



■ 芦屋町内の子ども食堂

どちらの食堂も子どもとその保護者の利用は原則として無料です。



☪もあはび食堂（船頭町）

- ◎対象：子どもとその保護者など
- ◎日時：毎週金曜日 午後4～6時
- ◎場所：船頭町1番37号
- ◎過ごし方：食事や茶話、宿題など

☪にじいろ食堂（山鹿）

- ◎対象：子どもとその保護者など
- ◎日時：毎月第4水曜日 午後4～7時
- ◎場所：大字山鹿129-1（大君区公民館）
- ◎過ごし方：食事や茶話、宿題など



◎利用者の様子



利用する子どもは、利用する子ども同士や地域の大人と顔を合わせて食事をしています。日々の生活のことや学校のことなどを話し、交流が生まれています。

居場所となる空間があることで安心感に繋がっているようです。

◎スタッフの様子



子ども食堂の運営には、ボランティアスタッフの募集や開催場所の確保、食材の維持・管理、食堂の周知方法など解決すべき課題がさまざまありますが、運営スタッフの皆さんは子どもたちの笑顔のために、日々奮闘しています。

すくすく育て
あしやっ子
NO.189



▽問い合わせ 社会教育係
(☎ 223-3546)

ほめ上手になろう

子どもの成長を見守っていくうえで「ほめる」ことは大切です。しかし、「子どもはほめて伸ばせ」という声がある一方で「ほめすぎもよくない」という声もあります。さまざまな意見を耳にすると、自分のほめ方は正しいのだろうか、迷うことがあるのではないのでしょうか。



そこで、今回は効果的なほめ方の3つのポイントを紹介します。ほめ上手になって家族の絆を深めましょう。

1 プロセスをほめる

例えば、試合結果だけで子どもを評価するのではなく、「あきらめないで最後まで走り切ったね」という

風に、努力や結果に至るまでのプロセスをほめましょう。これによって子どもは、たとえうまくいかないことがあっても、あきらめずに挑戦し、努力を継続することができます。



2 具体的な言葉でほめる

例えば、運動会での子どもの様子を見て、「よく頑張ったね」とだけ言うのではなく、「ダンスのときの表情がとてもすてきだったよ」と、見たままの様子や事実を具体的な言葉で伝えます。すると、子どもは自分の長所が理解できるうえに、大人が向き合ってくれていることが感じられて心に響きます。

3 質問をする

質問をするときは、「楽しかった?」のような、単に「はい」「いいえ」で終わる質問ではなく、「今日友達ちと遊んで一番楽しかったことはなんだった?」というように的を絞った質問を試みましょう。質問をする大人にとっても質問をされた子どもにとっても、考えるきっかけになります。また、質問をされると、相手が自分に興味を持っていることを実感しやすいため、喜びや信頼の気持ちも生まれ、会話も広がります。

リード通信 No. 51

▽問い合わせ
ボランティア活動センター
(☎ 221・1011)

ペットボトルが大変身！ ペットボトル工場見学

8月2日に、リードばらんていあキッズ第2回研修会で、「ペットボトル工場見学」に行ってきました。研修では2つのテーマを決めて取り組みました。

《テーマ》

- 1 ポイ捨てされたプラスチックごみが生態系にどのような影響を与えているかを学ぶ
- 2 ビーチクリーンアップ活動の大切さとリサイクルの重要性を学ぶ

北九州市エコタウンセンター（若松区）では、資源には限りがあることや3R（リデュース、リユース、リサイクル）の大切さを学びました。ポイ捨てされたプラスチックごみは、やがて海に流れマイクロプラスチックとなり、海



のいきものがえさと間違って食べてしまうことを知り、ポイ捨てが与える環境への影響を考えることができました。

ペットボトル工場では、回収されたペットボトルが、フレーク状に細かく砕かれ、さらに汚れや付着物が取り除かれてペレットになり出荷される製造ラインを見学しました。そして、最終的に食品トレーやランドセル、スーツなどに変身していることを知りました。



●キッズたちは積極的に発言や質問をしたり、実際にフレークやペレットを触ったりするなど、興味を持って活動に取り組み、とても楽しかったと感想を寄せてくれました。

今後も好奇心や自発性、ボランティア活動への興味・関心を引き出す場となるように、見学や体験も盛り込んだ活動を企画していきます。